

Web予約  
PC・モバイル共通



<https://bit.ly/2BbNKWx>

「もう、忘れていいよ。  
わたしがここで、覚えてるから」

『標的の村』『標的の島風かたか』  
**三上智恵**

『テロリストは僕だった』  
**大矢英代**

# 沖縄 スパイ 戦史

**日時** 2019年**3月19日** **火**  
19:00~21:00 (18:30開場)

**会場** **大竹財団会議室**  
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

**参加費** 一般=500円  
学生、大竹財団会員=無料  
**定員30名【要予約】**

**主催** 一般財団法人大竹財団

監督:三上智恵、大矢英代

プロデューサー:橋本佳子、木下繁貴

撮影:平田 守 編集:鈴尾啓太 監督補:比嘉真人 音楽:勝井祐二

協力:琉球新報社、沖縄タイムス社

製作協力:沖縄記録映画製作を応援する会

製作:DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵、大矢英代

配給:東風

2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

ふたりのジャーナリストが迫った沖縄戦の最も深い闇。  
少年ゲリラ兵、戦争マラリア、スパイ虐殺……  
そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」とは?

[www.spy-senshi.com](http://www.spy-senshi.com)





# 戦後70年以上語られなかった 陸軍中野学校の「秘密戦」、 明らかにするのは過去の沖縄戦の 全貌だけではない。

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む20万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が降伏する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

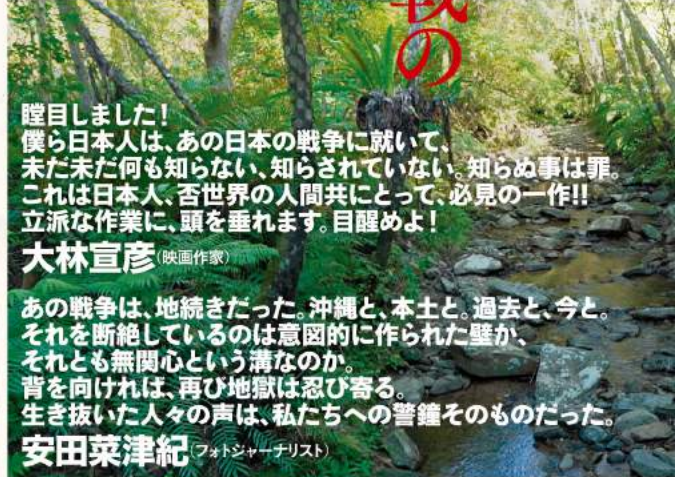
1944年の晩夏、大本営が下した遊撃隊の編成命令を受け、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らがもたらした惨劇とは……。



「散れ」と囁くソメイヨシノ  
「生きる」と叫ぶカンヒザクラ

長期かつ緻密な取材で本作を作り上げたのは、二人のジャーナリスト。映画「標的の村」「戦場ぬ止み」「標的の島風かたかた」で現代の闘いを描き続ける三上智恵と、学生時代から八重山諸島の戦争被害の取材を続けてきた若き俊英・大矢英代。

少年ゲリラ兵、革命による強制移住とマリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかにするのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。



瞳目しました！  
僕ら日本人は、あの日本の戦争に就いて、未だ未だ何も知らない、知らされていない、知らぬ事は罪。これは日本人、否世界の人間共にとって、必見の一作!! 立派な作業に、頭を垂れます。目醒めよ!

大林宣彦 (映画作家)

あの戦争は、地続きだった。沖縄と、本土と。過去と、今と。それを断絶しているのは意図的に作られた壁が、それとも無関心という薄なのか。背を向ければ、再び地獄は忍び寄る。生き抜いた人々の声は、私たちへの警鐘そのものだった。

安田菜津紀 (フォトジャーナリスト)



@spysenshi fb.com/spy.senshi www.spy-senshi.com

上映会のご予約・お問い合わせ 一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階  
JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、  
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分  
<https://ohdake-foundation.org> 03-3272-3900



Google  
マップ  
QRコード

スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

